



研究者名※	上田 誠二 KAMITA Seiji	学位※	博士(史学) 修士(教育学)
所属※	人間社会学部 現代社会学科	職名※	准教授
連絡先	kamitas@fc.jwu.ac.jp		
URL			
researchmap※	https://researchmap.jp/KFIPUmgGhA0csTMB		
研究分野※	人文学、史学、日本史		
研究キーワード※	近現代史、文化史、都市史		
共同研究・競争的資金等の研究課題	<ul style="list-style-type: none"> ・「混血児」のオーラル・ヒストリー(科学研究費・研究活動スタート支援・研究代表者、2020年度～2021年度) ・占領・復興・高度成長期の「混血児」教育(公益財団法人前川財団・家庭・地域教育助成・研究代表者、2014年度) 		
社会貢献・産学官連携活動等	<ul style="list-style-type: none"> ・町田市教育委員会 生涯学習センター まちだ市民大学HATS「町田の歴史」講座講師「現代の災害一人為的な災害」(2021年7月) ・2020年度 町田市男女平等推進センター 登録団体企画「今、映画「キクとイサム」を観て考える」講師「日本の敗戦と女性—BLACK LIVES MATTER の視点から—」(2020年10月) ・町田市立自由民権資料館2019年度特別展「町田の近代と青年」記念講演「大衆消費社会の到来に対峙する農村青年—1920-30年代の鶴川小学校『同窓会雑誌』を手がかりとして—」(2019年8月) ・首都大学東京(東京都立大学)オープンユニバーシティ「明治・大正・昭和・平成の音楽と社会—日本人」の心性史—講師(2019年8～9月) ・首都大学東京(東京都立大学)オープンユニバーシティ「戦後史の〈裂け目〉を生き抜いた人びと—今あらためて〈ハーフ〉〈在日〉〈ハンセン病〉から考える—」講師(2019年2～3月) 		
受賞歴	<ul style="list-style-type: none"> ・第28回「石川謙賞」日本教育史学会(2016年4月) 		

研究領域	現代史、教育史、音楽史	
研究テーマ※	マイノリティの視点からみた「戦後日本」の社会動態に関する研究	
概要※ (概ね1000字以内) (写真・グラフ等自由)	<p>【研究の背景・目的・内容】</p> <p>本研究は、第一に、敗戦後に主にアメリカ兵と日本女性の間に産まれた「混血児」と名指された子どもたちのライフコースを跡づけることで、歴史学でいえば「戦後史」あるいは「現代史」と呼ばれる領域にあって、これまで十分に検証されてこなかった「戦後」や「現代」の「裂け目」を生きることを強いられてきた人びとの生のありようの可能性を解き明かす。</p> <p>第2に、そうした苛酷な社会を生き抜いた女性たちの生のありようを、レコード流行歌やエゴ・ドキュメント(日記・手記・回想録など)を手がかりに跡づけ、戦後日本に埋め込まれた女性の〈感情〉を世界的・社会史的文脈のなかでひも解く。</p> <p>【応用例、研究の展望】</p> <p>第1のテーマでは、「戦後民主主義」の「自由」な社会にあって、その成員としておおむね承認されてこなかった「混血児」たちが、いかに生まれ育ち＝生存し、どのように生きる勇気や知恵を学び＝教育を受け、高度経済成長期を生き抜くためにいかに働いたのか＝労働に従事していったのかを、彼ら彼女たち自身の語りから明らかにすることで、戦後日本が抱え込んでいる「生きづらさ」のルーツの一端を解明し、私たちの社会における共生・共棲の課題について手がかりを提示したい。</p> <p>第2のテーマでは、戦後日本におけるジェンダーの〈感情史〉を周縁化された女性たちの視点から描出することで、歴史教育とりわけ高校新設の「歴史総合」において、his-storyとは異なる歴史像を構築し、人権や平和主義の視点から授業実践に資すことを目指している。</p> <p>【研究方法の特色】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オーラル・ヒストリーやエゴ・ドキュメントの収集によって社会の辺境から戦後日本の動態を描出する。 ・レコード流行歌の音楽的特徴の分析によって、ジェンダーの〈感情史〉の動態を描出する。 	
本研究関連特許・論文等	<ul style="list-style-type: none"> ・上田誠二「冷戦下日本の「戦後史」を音楽からみる—「歴史総合」に向けたジェンダーの〈感情史〉試論」歴史教育者協議会編集『歴史地理教育』2021年7月増刊号「音楽のきこえる社会科の授業」No.927、p.60-65 ・上田誠二『「混血児」の戦後史』青弓社、2018年 ・上田誠二『音楽はいかに現代社会をデザインしたか—教育と音楽の大衆社会史—』新曜社、2010年 	

共同研究・外部機関
との連携への期待

・自治体史・地域史の共同研究
・歴史教育の教材開発